五月二十九日　中国民航のジャンボ機で、北京空港から一飛びに成田東京国際空港へ着き、深夜二週間ぶりに帰宅した。日航ジャンボ機で成田を出発したのが十七日の朝、それから香港、広州、郷州、洛陽、安陽、林県、北京と見て廻ったのだから、五千年の歴史をもつ文化と、新しい政治経済体制で、十億近い国民が一心一体となって国づくりに励む姿である。一党独裁で極端に自由を制限しているが、一人当りGNP（国民総生産）が日本の五パーセントしかない貧しさの中で、全国民に職を与え生活を保障しているのだからやむを得ないことだろう。しかし、きびしい指導統制下とはいえ、建国の基礎を教育に置き、個人道徳、公衆衛生、治安維持、生産増強、祖国防衛などに努力していることは学ぶべきことであろう。

北京で日中友好協会を訪問したときは、華国鋒首相のときであり、日中国交を決断した田中総理の出身県だ、として特別に歓迎を受け、親しく懇談した。出発前夜成田のホテルで一泊したとき、国会の内閣不信任議決をきき、衆議院解散、総選挙になると思ったのだが、予想どおり明日参議院選挙の公示に続き、六月二日には衆議院選挙の公示である。中国をカラースライドで撮ってきたから、それを写して視察報告談をしたい。学区単位くらいの団体で計画してくだされば出席するから、総務課秘書係と打ち合わせていただきたい。

**六月一日**　葛塚中学校グランドで、阿賀北三市二郡身体障害者体育大会。私は大会会長として激励し、一日観戦する。身体の不自由にめげず、みんな元気で明朗なのがうれしい。「私は盲目の歌手と親しい。彼は同情の言葉をいやがる。人並みに扱ってくれという。人並みの十倍、二十倍の苦労と努力を重ねて得た自信と誇りである。身障者にそれを望みたい。私たちの同情は言葉ではなく誠意と実行でなければならない」NHKの文化講演会でいった作詞家永六輔氏の講演の一節を思いだす。

**六月五日**　豊栄市住みよい郷土建設協会が、今年度新潟県で全国表彰を受け、総会の席上で伝達した。会員のみなさんに心からお祝いし、感謝したい。防犯、交通安全、健康づくり、新生活、消費者運動などの各種の団体があるが、これらすべてが住みよい郷土建設が目的である。広義に考えると、産業や文化団体等も同じで市の行政もそれであるといえる。行政依存でなく、いわゆる官民一体の姿こそ地方の時代の実現であろう。

**六月九日**　建設省河川局の井上治水課長が、胡桃山排水機場建設工事と福島潟放水路計画場所の視察に来た。私は従来どおりの工事促進の陳情だけでなく、胡桃山排水機の運転に対応する排水の流速確保のため、福島潟と新井郷川のしゅんせつ工事実施を新たに陳情した。

北陸地方の梅雨入りが発表された。これでいささかほっとする。―というのは、今年になって既に火災が十八件となり、昨年の一年分を超えた。はしご車を購入したが、無用の長物といわれた方がいいと思っていたのに、初めてのビル火災でそれを使用した。梅雨になったら火災も起きないだろうと思うのだが、梅雨は水害のおそれがある。自然に頼るのでなく、やっぱり注意第一に願いたい。

# 市長の日誌　石井耕一

## やあ!! おげんきですか

県展奨励賞（写真）受賞

**清水重蔵さん**（法花鳥屋）　三一歳

▲最近では、市内も撮り始めた清水重蔵さん

過去県展入選八回の清水さん。写真はいつ頃から

「高校二年の時に写真部に入ったのがきっかけです。年間を通して撮るようになったのは二年ほど前からで、それまでは春にまとめて撮っていました。今回の奨励賞受賞作品である山古志村の〝投票日〟もそうですが、山古志村に出かけてから本格的になったみたいです。月に一、二回は出かけますよ」

なぜ山古志村を……

「雪が四メートル以上も積もるあの村には、郷愁のようなものがまだ沢山残っているんですよ。人口三千九百人余りの小さな村です。村の人たちには失礼かも知れませんが、この辺と比べると十倍位違っているような感じです。あの村には、素ぼくな人間と素ぼくな生活があるんです。その生活、即ちリアリズムなんです。私が目指しているのは……。人間性にひかれたんですね。今では、何月何日にどういう行事があるから来てくれ、と電話をもらったりするんですよ。うれしいですね」

失敗談などありますか

「民家に泊めてもらうほど村の人たちとは親しくなりました。二時間半もかけて出かけていって、世間話に夢中になりすぎて一枚も写真を撮らなかったこともあります。親しくなることはもちろん大切ですが、冷静な目で被写体を見つめることを忘れては駄目だということですね」

写真グループを作っているとか

「〝追真船〟といいます。メンバーは十一人ほどで、五十三年の末に結成しました。月一回の例会で、写真を持ち寄って批評しあったり、撮影会などもやっています。二十代から四十代の人たちで、農業、会社社長、市民講座の受講生も三人ほどいます」

最後に写真を撮ることで大事なことは

「関心を持つこと、感動すること、技術の三つでしょうか。撮る時の感動と、出来上がったものをネガから選ぶ時の感動が魅力ですね。近く山古志村で個展を開く予定です。もう四千枚は撮っていますが、撮った写真は撮ったところへ返す、そういう気持ちからなんです。出来れば東京でも個展を開きたいんです」

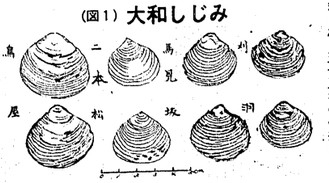


## 出土品は語る（26）

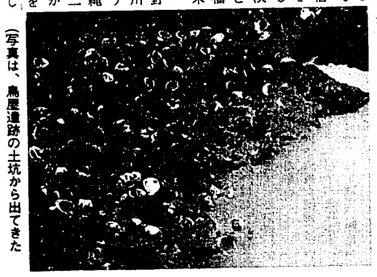
### 鳥屋貝塚

昭和二十九年土地改良の用水路を掘ったとき、縦七寸横九寸貝層十五センチの大和しじみ（図1）の貝塚が発見されました。五十三年の発掘のとき一か所、翌年の発掘のとき三か所の土坑から貝が発掘されました。日本海側は、太平洋側と比べて貝塚が少ないのです。新大の本間教治先生は日本海は還浅でなく、干潮がなく、泥が少ないのが貝の少ない原因だと言っています。現在、県では加治川村貝塚と刈羽村刈羽貝塚しかありません。貝塚は、紫雲寺潟に面した丘の上にある有名な中期縄文の遺跡ですが、貝はどこからでたかは不明です。昭和八年遺跡畑の持主の宮下銀六老人から、屋敷を拡げるため裏の畑を崩したら、かますに幾つも貝がらがでたという話をおききしました。それが貝塚であったのでしょうか。今はまぼろしの貝塚です。刈羽貝塚は、日本海側五か所の貝塚の内の代表的なものとして、県の文化財に指定されました。昨年島根県を旅行したとき、ガイドさんの、玉造温泉と松江で大和しじみをお食べになったでしょうが、宍道湖の干拓が進み海水が入らなくなると大和しじみが食べられなくなるとの説明でした。今まで、貝塚刈羽、鳥屋は淡水の大和しじみと発表されているのです。黒崎高校帆刈信雄先生におききすると、大和しじみは海水と淡水のまじったところに住み、福島潟には大正末期までいたが、現在は、阿賀野川と信濃川の川口にいるというのです。私は縄文土器のでる二本松と馬見坂から大和しじみを採集してきました。古代は紫雲寺潟まで自由に海水が入ったことになります。砂丘が発達して新潟までとどいて海水が入らなくなってから大和しじみが死滅したのでしょう。貝塚は、砂丘の発達を知る材料にもなります。

―畠山　佑二記―




（図1）大和しじみ



（写真は、鳥屋遺跡の土坑から出てきた貝がら）

## はし（15）樋端の堰橋

▼写真は、取り壊し寸前（昭和44年ころ）の堰橋

〝樋端の堰〟下大口のはずれ、家々が立ち並び今では全く面影のなくなった堰。

今回は、下大口の丸山安次さん（七四歳）に聞きました。

堰はいつ頃まで、由来は。

「そうだね、二年続きの水害の時はあったから、四十四年頃に取り壊されたようだねっし。県道の向う側の部落を樋端と言ったもんだから、一般に樋端の堰と呼んでいました。正式には、四か村の堰が正しいんです」

当時の想い出など

「このあたり一帯ヤチばっかりでねっし。軒端まで田舟で行き来しますんさ。ところが、堰を境に水の落差がかなりあるもんだから、水を流すと田舟が、もぐることがよくあったねっし」

やはり水争いなどもあったんでしょうね

「農家にとって昔も今も、水は死活問題なんですね。当時自分も堰設委員で苦労をしましたよ。佐々木、中沢、太田小屋にそれぞれ堰があってねっし。堰を開けてもらうために一日がかりで交渉に出かけるんさ。その場では、話がついて、意気揚揚と帰ってみると、水が全然来なかったことなど度々でしたさ。そのあとがまた大変なんでねっし。水をこちらに流すためにクイを打って、竹を縄で編み、そこにムシロを当てた草堰を壊しに出かけるんださ。一人では、かなり危険でしたねえ。

その後、こんなことではとても駄目だということで、協定を結ぶことになったんださ」

「当時は、水が澄んでいて飲み水にもしたんですよ。近くの造り酒屋さんなどが、この堰まで水を取りに来たもんでねっし。泳ぐことも、もちろん出来ましたねっし。ここでカッパになった人も沢山出たんですさ」

十年以上も前に姿を消した樋端の堰橋を、鮮明な記憶で語ってくれた丸山さんでした。